

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

• •

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故事例
2. 体験した事例の名称	救助活動中（交通事故）における大型油圧スプレッダー使用時の事故事例について
3. 体験した事例の中心的要素	大型油圧スプレッダーをドアの付け根部分と運転席左側面に先端チップを設定。開放後、当スプレッダーを車外に搬出する際、左手の第3・4指をチップ部分に挟まれたもの。
4. 体験した事例の原因・理由	事故車両は、スポーツカータイプで車内は狭隘であり、単独で当スプレッダーを保持することが出来なかつたため、当スプレッダーを設定するものと操作するものが別人（複数の隊員）で活動したため、意思疎通が出来なかつたものと思われる。

【体験した事例の直接的原因について】

• •

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があつた。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

• •

1. 発生日時	平成 18年 2月 20日	午前 9時頃
2. 発生した当時の天候	曇	
3. 発生した活動現場	屋外：汐見町 パチンコ ビーナスギャラリー西側市道	
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我	
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)		
7. 事例体験時の活動	救助、 [現場活動中期、]	
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	人命検索・救出、	
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。	

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[25]歳、 勤続年数[6]年、 現場経験年数[4]年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [機関員]
○当事者 B	年齢[22]歳、 勤続年数[3]年、 現場経験年数[1]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1.1. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	Bと共に救助器具（大型油圧スプレッダー）を設定した。	
経過 2	B	操作員として操作レバーを担当した。	
経過 3	A	設定箇所変更の為、一度、車外に救助器具を搬出することとした。この時、チップ部分を保持していた。	Bが救助器具を徐々に閉鎖しているのに気付かなかつた。
経過 4	B	設定箇所変更の為、一度、車外に救助器具を搬出することとした。この時、操作レバーを閉鎖方向へ廻す。	Aがチップ部分を保持しているのに気付かなかつた。
経過 5	A	左手の第3・4指をチップ部分に挟まれたもの。	
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •

○事故の場合

：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。資機材の操作がうまくいかなかった。周囲の視界が確保できなかった。足元の安全が確保できていなかった。後方からの監視の目が行き届いていなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。

b 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・ 活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・ 活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・ 活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・ 体調が悪かった。	いいえ
・ 悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・ 装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・ 必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ
・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・ 狹隘な場所であった。	はい
・ 暑かった（寒かった）。	いいえ
・ 野次馬が多かった。	いいえ
・ 現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・ 足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・ 足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・ 活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	いいえ
・ 指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・ 隊員の連携が不十分だった。	はい
・ 隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があつた。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

隊員相互の確実な意思伝達と、資器材の取扱いに精通し、安全・確実な取扱いに徹する。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

安全管理者の確保及び指差呼称と各自の活動状況伝達復唱の徹底